

# わかやま 和歌山市



つつじ



くすのき

HPアドレス <http://www.city.wakayama.wakayama.jp/>

## 市名の由来

1585（天正13）年、豊臣秀吉の命を受けた豊臣秀長は、虎伏山にて城を築き始めました。その際、秀吉は山上から、古来万葉人の憧れの地であった「和歌浦」を臨み、和歌浦に相對する山に築くその城を「和歌山城」と命名したことに由来するといわれています。

以来、和歌山市は和歌山城の城下町として発展してきました。

## 市章の由来

和歌山市は、三方を山に囲まれ、西は紀伊水道を隔てて淡路島、四国を臨む風光明媚な温暖の地です。徽章は、その山に囲まれた地形を表し、白い矢印は三方の山を貫く市民の力、すなわち和歌山市発展の勢いを表しています。中の二重丸はワカヤマの「カ」（カタカナ文字）を図案化したもの。和は、和カヤマの「和」を表しています。

## 市の紹介

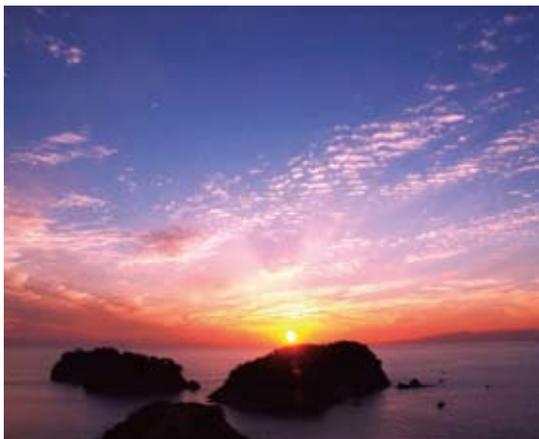
「水と緑と歴史のまち」和歌山市は、温暖な気候と美しい海や山や川の豊かな自然に恵まれ、先人たちが築き上げてきた文化や技術、産業、都市基盤などを受け継ぎ、紀州徳川家の城下町、また和歌山県の県都として発展してきました。

市のシンボルである和歌山城は、市の中心、虎伏山の深い緑に凛とした姿を映し、城内は四季折々の美しさにあふれ、市民の憩いの場として親しまれ愛されています。その天守閣は、一度戦災で焼失しましたが、戦後、市民の熱意で再建されました。2008（平成20）年には、再建50周年を祝う記念事業「城フェスタ2008」が市民・企業などの協賛・支援を得ながら盛大に開催されました。

また、城下町には、歴史的、文化的資源や景観、かつての名残を留める特徴的な町名などが数多く残っています。近年、この市の中心市街地に蓄積された文化遺産等を生かしたまちづくりが進められています。2007年には「和歌山市中心市街地活性化基本計画」が内閣総理大臣の認定を受け、行政が市民や企業、また大学など様々な主体と連携して中心市街地の活性化に向けた事業に取り組んでいるところです。

一方郊外には、国指定の史跡である大谷古墳、全国でも最大クラス古墳数を誇る岩橋千塚古墳群があり、学術的にも高い価値があることが知られています。

加太の淡嶋神社は、その古の遷宮が雛祭りの起こりであるといわれることから、毎年雛流しの神事が執り行われ、全国各地から多くの人々が集まります。



雑賀崎

市名の語源とも言われる和歌浦は、万葉のふるさととして名高く、現在も美しい景観をとどめています。とくに、雑賀崎の夕暮れは夕陽百選にもあげられる圧巻の美しさです。

この恵まれた自然や資源を生かしながら、和歌山市がより一層魅力ある都市として成熟していくためには、今後も行政と住民が互いに切磋琢磨し、住民自治を基本に、多様な主体の協働により地域の課題を解決していくことが大切です。

輝く未来に向け、和歌山市は、市民一人一人が誇りを持ち、生き生きと暮らせる安全な環境の確保と豊かな自然と魅力ある都市機能の実現をめざし進化を続けていきます。



和歌山城